

2050年を見据えた東洋インキグループの価値創造

東洋インキグループは、目まぐるしく変化する経営環境に適応すべく、2027年を目標年とする長期構想 Scientific Innovation Chain 2027(SIC27)に取り組み、3年単位の中期経営計画を遂行しています。SIC27では「すべての生活者・生命・地球環境がいきいきと共存・共生する世界」を提供価値として当社グループが持続的に成長し、その企業活動が社会の持続可能性の向上に寄与する姿をコンセプト「サステナブルグロース」として掲げています。そして、企業の持続的成長と社会の持続可能性向上の両立を目的とした5つの重要課題(マテリアリティ)を策定、中期経営計画と連動したサステナビリティ活動を進めています。

さらに、近年の気候変動対応やカーボンニュートラル、SDGsへの取り組みに関するグローバルの動向、および企業向けられた要請が活発化している社会状況に対応するには、SIC27や重要課題の先、より長期的な視野での取り組みが必要であると考え、2050年を見据えた当社グループのサステナビリティ活動の実践的な長期目標として、SIC27と密接に連動するサステナビリティビジョン「TSV2050/2030」を策定しました。

長期構想

Scientific Innovation Chain 2027(SIC27)

コンセプト

提供価値

《サステナブルグロース》

《For a Vibrant World》

すべての生活者・生命・地球環境が
いきいきと共存・共生する世界

SIC-I 2018～2020年度

SIC-II 2021～2023年度

新たな時代に貢献する生活文化創造企業を目指す

基本方針1 事業の収益力強化

基本方針2 重点開発領域の創出と拡大

基本方針3 持続的成長に向けた経営資源の価値向上(企業体質の変革)

SIC-III 2024～2026年度

▶▶▶P.23

中期経営計画と連動する5つの重要課題(マテリアリティ)

重要課題 1

お客様の期待を超える価値を提供し、社会に貢献する

重要課題 2

革新的技術を通じて環境と共生する

重要課題 3

サプライチェーンと共存共栄を図り、ステークホルダーの信頼に応える

重要課題 4

社員を大切に、幸せや働きがい追求する

重要課題 5

信頼を支える堅実な企業基盤を築く

▶▶▶P.33

2018

2021

2024

2027

2030

2050

・SDGs(持続可能な開発目標)達成への貢献

・カーボンニュートラル達成

サステナビリティビジョン「TSV2050/2030」

TSV2030	TSV2050
1. 持続可能な社会を実現させる製品・サービスの提供	
- サステナビリティ貢献製品売上高比率80% - ライフサイクル視点でCO₂排出削減に貢献できる製品の拡大	- すべての製品をサステナビリティ貢献製品に - お客様の脱炭素化に貢献
2. モノづくりでの環境負荷低減	
- CO₂排出量 国内35%削減(2020年度比) 海外35%削減(2030年度BAU比) - 廃棄物外部排出量 国内50%削減(2020年度比) - 有害化学物質排出量 国内30%削減(2020年度比)	- 生産活動でのCO₂排出量を実質ゼロ、環境負荷を最小化 - 廃棄物の発生を最小化 - 持続可能な水利用を実現
3. 信頼される企業基盤の構築	
- 環境・社会調和な原材料調達の実現 - 社員の多様性の尊重、自然・地域との共生 - 絶え間ないガバナンス体制の再構築	サプライチェーン、人材・地域活動、ガバナンスを環境・社会貢献の視点で継続的に改革・変革

TSV2030の
具体的目標を反映させ
TSVと中期経営計画を連動

激変する経営環境に
適応すべく
長期構想を策定

バックキャストにより
マイルストーンでの中間目標を設定

より長期的な視野の
ビジョンを策定し
近年の社会状況に対応

経営環境・社会状況

社会・環境課題

東洋インキグループの
あるべき企業像

提供する全製品・サービスが
サステナビリティに貢献

モノづくりにおける
環境負荷が最小化

社会の持続可能性向上に
寄与できる企業

あるべき姿を起点に
バックキャストで
方向性と目標を設定

TSV2050/2030は、2050年を目標年としてあるべき姿に至る方向性を示した「TSV2050」と、そのマイルストーンとして2030年にバックキャストした諸目標を示した「TSV2030」の2つからなります。

TSV2050は、提供する全製品がサステナビリティに貢献していること、カーボンニュートラルをはじめモノづくりにおける環境負荷が最小化されていること、社会の持続可能性向上に確実に寄与できる企業であることをあるべき姿として、さまざまな企業活動を推進するための基本的なビジョンです。一方TSV2030は、TSV2050の時間軸上のマイルストーンであるとともに、国連が提唱するSDGsの達成に向けた企業としての貢献を推進する中間目標です。TSV2050/2030は、当社グループのCSR、サステナビリティ、ESGに関するあらゆる取り組みのベースとなっています。

企業と社会の持続的成長を目指す価値創造モデル

東洋インキグループは、企業と社会の持続的成長を目指して、「時代を超えた不変の柱」である経営理念のもと、グローバル課題認識とグループの強みの把握を踏まえ、長期構想 Scientific Innovation Chain 2027 (SIC27) で示している価値提供を実現すべく、2021年から中期経営計画「SIC-II」を実行しています。「新たな時代に貢献する生活文化創造企業」として、SIC-IIで定めた重点開発領域に向けて新たな価値を提供していきます。



OUTPUT

事業セグメント

▶▶▶ P.41

色材・機能材関連事業

汎用顔料、顔料分散体、高機能顔料、カラーフィルタ
用ペースト、カラーレジスト、カラーマスターバッチ、
機能性マスターバッチ、機能性コンパウンド、記録材
塗料、カーボン分散体、インクジェットインキなど

ポリマー・塗加工関連事業

粘着剤、ラミネート接着剤、ホットメルト、接着テープ、エレクトロニクス関連機能性フィルム材料、マーキングフィルム、製缶塗料、樹脂、ハードコート、メディカル製品、天然材料など

パッケージ関連事業

グラビアインキ、フレキソインキ、グラビア機器、
グラビア・フレキソ製版など

印刷・情報関連事業

オフセットインキ、新聞インキ、金属インキ、UV
硬化型インキ、オフセット印刷材料、印刷検査装
置、スクリーンインキなど

注力する3つの重点開発領域 ▶▶▶P.27

サステナビリティ・サイエンス領域

- 環境調和型パッケージ
バイオマス、リサイクル
- EV・新エネルギー
リチウムイオン電池用材料

コミュニケーション・サイエンス領域

- IoT・センサー
光学制御材料
- 5G・半導体
低誘電材料、機能性フィルム

ライフ・サイエンス領域

- **メディカル**
貼付型医薬品
- **デジタル印刷**
インクジェットインキ

東洋インキグループの事業活動と関わりの深い SDGs12の目標



OUTCOME

東洋インキグループが提供する価値

For a Vibrant World

すべての生活者・生命・地球環境が
いきいきと共存・共生する
世界の実現に貢献します。

地球環境と共生する
循環型社会
環境価値

快適・健やか・安全に
暮らせる社会
生活価値

サステナビリティビジョン「TSV2050/2030」

▶▶▶ P.13

1. 持続可能な社会を実現させる製品・サービスの提供
2. モノづくりでの環境負荷低減
3. 信頼される企業基盤の構築

価値創造の源泉となる資本

東洋インキグループの経営基盤を支え、価値創造の源泉となるのが、財務・製造・人的・知的・社会関係・自然の6つの資本です。これらの資本を自在に活用することで、さまざまな社会課題を解決する事業活動を展開していきます。そのようなグループの事業活動が創出する経済価値や環境価値・生活価値が、経営基盤の強靱化とさらなる価値創造を実現するための原動力となります。

※数字は特記のない限り2021年12月末時点のものです。



財務資本

投資と株主還元のバランスを重視した健全な財務基盤

企業の持続的成長に向けた投資は、健全な財務基盤によって実現可能となります。東洋インキグループは、「財務体質の健全性」「成長に向けた積極的な投資」「株主への還元」の3要素の適切なバランスを重視した資源配分を行い、グループの価値創造を支えます。

■ 総資産	406,896百万円
■ 親会社株主に帰属する当期純利益	9,492百万円
■ 自己資本	218,449百万円
■ キャッシュ・フロー(現金及び現金同等物の期末残高)	60,949百万円



製造資本

生活文化創造の土台となるモノづくりプラットフォーム

東洋インキグループは、創業以来モノづくり企業として社会に貢献することを志向してきました。原材料である顔料やポリマーから製品であるインキや各種機能性製品までを一貫生産できる体制によって、当社グループの掲げる生活文化創造を実現します。処方やノウハウ、生産技術を国内外のグループ各社が共有することで、地産地消とグローバル品質マネジメントの仕組みを構築し、地域ごと・市場ごとの要望に対し期待以上のソリューションを提供することができます。

■ 素材から製品までの一貫生産体制	
■ 品質マネジメントのグローバルネットワーク	
■ 生産拠点	国内13拠点 海外30拠点
■ 設備投資額	19,680百万円
■ 海外生産比率(数量ベース)	61.9%
■ 休業災害度数率	0.569(国内)



人的資本

価値創造を支える多様な人材と良好なエンゲージメント

東洋インキグループが最も重要としている経営資源は社員です。世界約8千人の多様な人材が各々のミッションに取り組み、グループの価値創造を支えています。さまざまな人事施策と育成プログラムを通じて、ダイバーシティ&インクルージョンの推進や、働きがいのある職場環境の醸成、社員各々のキャリア形成のサポートを図り、企業と社員の良好なエンゲージメント構築に取り組んでいます。また、デジタルによる事業改革を加速すべく、DXに対応できる人材の育成も進めています。

■ 連結社員数	7,887名(国内3,077名 海外4,810名)	
■ 女性採用比率(新卒・中途)	33.3%(東洋インキSCHD原籍)	■ 海外現地採用社員の管理職数 508名
■ 女性管理職数	24名(国内・2022年1月時点)	■ 社員満足度 84.5%(国内・社員意識調査におけるポジティブな回答率)



知的資本

新たな事業の創出・拡大を牽引する技術基盤と体制

■ 基礎研究・応用研究・製品開発に分化・階層化されたR&D体制		
■ 幅広い事業展開を可能にするテクノロジープラットフォーム		■ 研究開発費 8,496百万円
■ 研究開発・技術部門社員数	778名(国内)	■ 特許保有件数 国内1,991件 海外869件



社会関係資本

地産地消を推進するネットワークと健全なサプライチェーン

■ グループ会社数	連結61社 持分法適用7社	
■ 事業活動地域・拠点	24ヵ国 106拠点	■ 主要なサプライヤー 約300社(国内)
■ 海外売上高比率	49.9%	■ お客様との信頼関係を続けてきた時間 126年(創業1896年)



自然資本

企業と社会の持続可能性を支える地球環境と資源

■ エネルギー消費量	89,709kL(原油換算)	
■ 水使用量	5,650千m ³	■ 原材料(石化系・非石化系) 168,356t

